

津波シェルター開発

ニシエフ 25日に性能確認試験

船舶製造・修理のニシエフ（山口県下関市、堀井淳社長）は25日、救命艇の製造技術を活用し開発した「津波対応避難シェルター」の性能試験を実施する。日本海事協会などの立ち会いの下、同シェルターが波にもまれた際の復元性などを確認し、発注主に乗り込み方を説明、実際に入ってもらい訓練をする。

同社が開発した津波シ

エルターは長さ6・5メートル、幅2・6メートル、高さ2・8メートルでオレンジ色。繊維強化プラスチック（FRP）の二重構造に、ウレタン発泡材を充填すること

で、強度と浮力を確保。大人が26人乗れ、1週間程度を過ごせる水や非常食を搭載している。

津波対策は高台への避難が有効とされているが、高齢者や子どもは地震発生から津波が到達す

るまでの間に、十分な高さの場所に避難できない恐れが指摘されている。

津波到達前にシェルターに乗りこむことで、津波に巻き込まれたり、漂流したりしたときの生命の安全を保つ。今回開発したシェルターは浜松市の保育園に納品する予定。

津波シェルターは、東日本大震災以降、関心が高まり、国土交通省を中心に、安全基準作りが急がれている。ニシエフは船舶の救命艇の製造技術を生かし、シェルターを開発。生命維持に十分な性能があると確認されれば、今後、製造・販売を拡大していく方針。